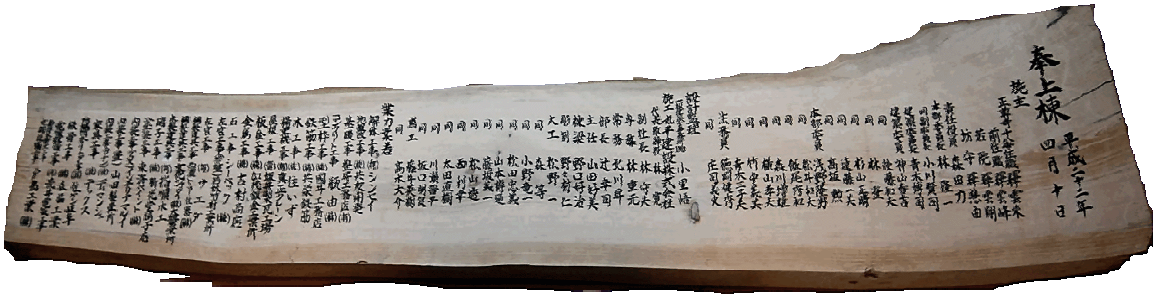

親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業

正尊寺庫裡新築
上棟式々次第

平成二十二年四月十日　午前十一時

本巣市曽井中島

法園山正尊寺

第　式　次

開式の辞（小川副委員長）
合掌礼拝
勤　行
三奉請（さんぶじょう）導師　〈住職〉　焼香
表　白（ひょうびゃく）
讃仏偈（さんぶつげ）
（焼香）・坊守・本部委員長・副委員長
・設計管理者（小里設計士）
・施工者（丸平建設社長）
・順次：門徒・建設関係者

短念仏
廻　向（えこう）
合掌礼拝
住職法話
合掌礼拝

上棟の儀
・槌打ちの儀（大屋根が見える外に移動します）
・古歌
・棟札奉納

閉式の辞（青木副委員長）
合掌礼拝

祝宴（休憩・会場設営）

表白文

敬って
大慈大悲の阿弥陀如来の御前に申し上げます

去る二月四日
正尊寺庫裡新築の起工式を厳修し
以来、工事関係者各位のご尽力の元順調に工事が進捗し
本日ここに上棟式を執り行います
思えば
寺院を別名「精舎」と言い
これを梵語にては「ビハーラ」といい
「こころ安らぐ場」とも訳出されています
この度の庫裡新築事業は
親鸞聖人七百五十回大遠忌お待ち受けとして
正尊寺を「みんなが集う、みんなのお寺」と致したいと
発願され有縁門信徒の懇念を運び合い始められたものです
これはとりもなおさず「念仏の道場」の建設に他なりません
いま、上棟の日を迎え恭しく仏前を荘厳し懇ろに聖教を読誦して
如来・聖聚の加護を感謝いたします
宗祖親鸞聖人は「和讃」に

南無阿弥陀仏を
となふれば
十方無量の諸仏は
百重千重囲繞して
よろこびまもり
たまふなり

と、仰せられました
このうえは阿弥陀如来の慈悲の光に護られ諸仏・菩薩の護持を賜りつつ
一同が心を遇わせて工事がつつがなく進みめでたく完成の日を迎えますことを
法園山正尊寺
第十八代住職　釈雲来
謹んで申し上げます。

讃仏偈

光顔巍巍
威神無極
如是焔明
無与等者
日月摩尼
珠光焔耀
皆悉隠蔽
猶若聚墨
如来容顔
超世無倫
正覚大音
響流十方

戒聞精進
三昧智慧
威徳無侶
殊勝希有
深諦善念
諸仏法海
窮深尽奥
究其涯底
無明欲怒
世尊永無
人雄師子
神徳無量
功勲広大
智慧深妙

光明威相
震動大千
願我作仏
斉聖法王
過度生死
摩不解脱
布施調意
戒忍精進
如是三昧
智慧為上
吾誓得仏
普行此願
一切恐懼
為作大安

仮使有仏
百億万仏
無量千億
数如恒沙
供養一切
斯等諸仏
堅不求道
譬如正恒
諸仏世界
復不可計
無数不思
光明悉照
偏諸刹土

如是精進
神難量
威令国土
国其衆生
国道場
而無如泥
度脱超
我当無等
十方清
心悦安
已到我
快楽国

幸仏信
仏我真
是発力
智十方
常令世
知我心
仮令身
諸苦毒
我行精
忍終不
悔進

証明
彼欲尊
於所
願精
我仏
力世
慧無
令此
我心
行止
苦毒
精進
中
行
尊
碍
尊
欲
願
真
証
明
信
仏
幸

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

願以此功徳
平等施一切
同発菩提心
往生安楽国